

(様式第8号)

事業報告書（令和6年度）

事業名 くらた親子食堂

団体名 くらた親子食堂 担当者名 中島加奈

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

毎月第二水曜日、コープ倉田歯科2階

主に未就学児をもつ親子に毎月10組程度参加いただき、身体にやさしい天然だしで作ったお野菜たっぷりのお味噌汁とおむすびを提供。歯科衛生士や管理栄養士、理学療法士、助産師、看護師、保育士などの子育て支援の専門家がスタッフとして運営し、子育てや離乳食の悩みを気軽に相談できる地域の居場所づくりとして「親子食堂」を開催した。

【6月食堂】

参加親子4組、WS栄養のはなし4組、テイクアウト30食

参加者の声：子どもがお味噌汁をたくさん食べていて、家ではあまり野菜を食べないので感動した！！WSで日々の悩みや気になっていることを聴けてすっきりできた。



【7月食堂】

参加親子5組、WS米粉ナチュラルおやつ教室4組、テイクアウトなし

スタッフの声：子どもの月齢に近い参加者が多く、横のつながりが広がった様子がみられた。顔見知りも少しずつ増えて参加者同士のコミュニティができてきている



(様式第8号)

【7月31日 小学生なつやすみ企画】

コープ倉田歯科2階

夏休み中の小学生とその親が親子で参加する料理教室を開催。毎月の食堂で提供しているお味噌汁とおむすびを小学生が主体となって調理配膳し、いつも食事を作ってくれている両親などにふるまうというイベントを開催した。農家さんによるお野菜クイズや、スーパーの野菜との食べ比べなどを行い、食についての関心を高めるような工夫もおこなった。

参加者合計31名（子ども14人、大人10人、スタッフ5人、愛育委員2人、取材1人）

参加者の声：普段は苦手な食材が今日は食べられた！お出しのいりにびっくりしたけど、食べてみたらおいしかった！子どもたちがとても楽しそうにいい顔していて参加してよかった。防災おにぎり（アイラップを使った方法）が斬新でとてもよかった！また参加したい。



【9月食堂】

参加親子9組、WS米粉パンレッスン2組、テイクアウトなし

参加者の声：10種類の具が入ったお味噌汁がとても美味しかった。幼児食に相談できて安心できた。



(様式第8号)

【10月食堂】

参加親子10組、WSアロマスプレーづくり4組、テイクアウト21食

スタッフの声：初のパパ参加があった。テーブルレイアウトを少し変更して、参加者同士のコミュニケーションが円滑になるように配慮してみた。食事中は会話も弾んでいた。食べることについての質問も多く有意義な時間となった。



【11月食堂】

参加親子7組、WSなし、テイクアウトなし

参加者の声：初めて参加したが日々の悩みが解消されてよかった。お味噌汁が美味しかった。スタッフの声：悩みがあると参加された方が帰る際に声をかけると、表情が明るくなりすっきりした様子に見えた。実際にすっきりしたと言われていてとても良かったなと感じた。



【12月食堂】

参加親子：8組、WS安心安全に食べるとは（中島）、テイクアウト16食

参加者の声：いつも子供が家で偏食があって食べないのに、食べてくれて驚いた。スタッフの声：野菜高騰しているので野菜たっぷりの味噌汁はうれしい。今日も赤ちゃんにいやされた！テイクアウトのお弁当のおかずがおいしそうだった。

(様式第8号)



【1月食堂】

参加親子4組、WSおだしの講座（外部講師：岡山中央水産）、テイクアウト18食

参加者の声：アレルギーが気になっていたので相談できてよかった。子育ての悩みや保活について相談できた。話を聴いてもらえて肩の力がふっと抜けた。親子でゆっくりできた。スタッフの声：ご飯を作りながら会話も楽しめて気晴らしになった。



【特別講座 1月18日（土）お口の発達と離乳食の講座（外部講師：言語聴覚士）】

離乳食と口腔発達について、言語聴覚士の先生を招いて講習会を行った。市販の離乳食を試食して、形態や選び方のコツなどについて講義いただいた。参加親子5組

参加者の声：こういう話はなかなか聴けないのでありがたい。実際に何をみたらいいのか、何に気をつけたらいいのか、分かりやすく勉強になった。このような学びの場がもっとあってほしいと思った。



(様式第8号)

【2月食堂】

参加親子8組、WSアレルギーのはなし（外部講師：助産師）、テイクアウト16食

参加者の声：離乳食の食べ方をみながらアドバイスしてもらえてとても良かった。お味噌汁が美味しかった。野菜が高いのでありがたい。ゆっくりできた。



2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

食事をしながら日頃の子育てや悩み、疑問などをシェアする場になっており、運営側からの専門的な助言だけでなく、参加者同士の意見や情報交換などが盛んに行われていた。ひとりで抱え込みがちな、悩みや不安を話すことで、「肩の荷が下りた」「SNSではわからないことが直接聞けて良かった」などのお声を多くいただいた。

②どのように学び合いを取り入れたか

参加者だけでなく、スタッフも輪の中に入って食事をするすることで、気軽に話がしやすい場づくりを心がけた。無農薬野菜の農家さんにお手伝いいただき、旬の野菜の豆知識や食べ方、調理方法などについても助言を頂いた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

参加申し込みのアンケートや、当日の会話の中からお母さんたちが興味のあることや困っていることを聴取し、食事提供の前後で講座やワークショップなどを行った。離乳食や幼児食の進め方に悩むお母さんに対しては、直接食べる様子をみながら歯科衛生士などが助言を行い、「分かりやすい」「家でできそう」と感想をたくさん頂いた。継続的に参加されている方には、前回からの変化点などを聴取して追加のアドバイスや情報共有などを行うように配慮した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

パンフレットを作成し地域の支援センターや子育て支援に携わる事業所などに置いていただいたことで、たくさんの地域の親子とつながることができた。助成金を利用して参加費を無料にしたことで、だれでも参加できる居場所として地域の親子に活用していただけた。食にまつわる勉強会や講座を専門家を招いて行うことができ、「食」に関する知識や関心の向上に繋がったと感じられた。夏休みの親子企画では、小学生が主体となって調理や配膳などを行うことで、普段食事を作ってくれている「親」への感謝の気持ちが湧いてきたり、家では食べられない食材を食べられたりと、親子ともに楽しみながら「食」の大切さについて向き合う時間になったとご意見を頂いた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

会場の広さやスタッフのマンパワーの問題により、一度に最大10組、月に1回の開催という形で1年間運営をしてきたが、定員オーバーでお断りする月もあった。同じような事業を他の拠点でも行えるようにしたり、受け入れ態勢を拡大していくためには、「食」「健康」に関する知識を学んで実践し、地域の親子に伝えていける場所や仲間がもっと増えていくと良いと感じた。